

名前 _____

基本メニュー (☆☆☆) …必ずやりましょう。

	チェック
① 週テストの復習用を解く	
② 授業用テキストを読み直す 太字になっている部分は書いて覚えるとよい。	
③ 宿題用テキストの基本問題A・基本問題B・復習問題を解く	

応用メニュー (☆☆) …基本メニューが全て終わって、余裕があればやりましょう。

	チェック
① 宿題用テキストの練習問題Aを解く	

発展メニュー (☆) …チャレンジしたい人はやりましょう。

	チェック
① 宿題用テキストの練習問題Bを解く	

担当より一言

今回は、季節と天気について学習しました。

今回の内容が取り組みにくいと感じる人は、もののあたたまり方の単元を復習してからのぞむと効果的です。

まず高気圧と低気圧。ここが今回考え方としては一番難しいと思いますが、天気の変化を考える上で最も根本的な原理です。温度の違いがどのような空気の流れを起こすのか、筋道が追えるようにしましょう。海風・陸風から季節風まで、この原理で理解することができますし、高気圧では天気がよく、低気圧では悪くなる理由もわかるでしょう。

季節と天気については、各季節の雲画像の特徴をおさえて、どれがどの季節のものであるのか判別できるようになりましょう。梅雨は日本列島に梅雨前線の雲がかかっている、夏は高気圧におおわれていてあまり雲がかかっていない、冬は西高東低の気圧配置となり、北西の季節風によるすじ状の雲がかかっていることが特徴です。

フェーン現象の計算問題は、スタート地点、雲のでき始め、山頂、ゴール地点と順番にたどって気温を求めていけば、さほど苦勞をせずに答えにたどり着けるはずです。